

凡ソ一個ノ物本來同種類ノ物權存ニテ互ニ相  
代ヘテ其用ヲ為スニトヲ得ルトキハ之ヲ代替  
物ト稱ス

此ノ如ク代替物ト不代替物トヲ區別スルモノ

ハ前条ニ掲ゲタル區別ノ如ク物ノ性質ニノミ

基クモノニ非ラズ仍ホ当事者が明示若クハ黙

示ヲ以テ此性質ヲ認メ又ハ法律が命令若クハ

当事者ノ意思ノ推測ニ基キテ此性質ヲ認メ又

ルコトヲ必要トナス

一回ノ使用ニ因テ消費スルモノハ当事者ノ意

思ニ因テ之ニ代替ニ得心キモノト看做サル  
ニト普通ノ状態ナリ此故ニ金錢米又ハ油ヲ借  
受ケタルモノハ其借受ケタル金錢米油ハ其  
心モ同額ノ金錢同一ナル品格及数量ノ米又ハ  
油ヲ返却シテ有効ニ其義務ヲ受カハルコトヲ  
得心シ

又或ハ一回ノ使用ニ因テ消費スルモノガ当事  
者ノ意思ニ因リ特ニ不代替物ト看做サレ得ツ  
テ且物ヲ以テ返還セザル可カラサルコトアリ  
法律ノ規定ニ基テ代替ノ單ニ本來ノ性質相同

シキ物ノ別ニ存スルモノニ非ラズ猶致歩

法律ノ規定ニ基クテ代替ノ單ニ年來ノ性質相

シキ物ノ例ニノミ存スルモノニ非ラズ猶致歩

ヲ追メ元來性質異ナリ又ルモノノ例ニ於テモ

之ヲ認ムルニトテ得故ニ金錢ノ義務ヲ負担ス

ルモノニシテ同時ニ地方市場ノ相場ヨリ米油

其他ノ日用品ノ或定量ノ債権者又ル場合ニ於

テハ日用品ノ相場ニ從ヒ其有之ル債権ヲ金錢

ニ評價シ自ラヲ負担スル債務ト相殺ヲ認ムル

ニトテ得心シ(参考ヲ五五二ノ条)

第十九條

凡ソ物ハ其本多額ニ於テ方ツコトヲ得心キモ

ノナリ物ニシテ令ツ可カラサレハ至ノ例外ニ  
 過ギズ第一有件物ハ許差ナルト不効差ナルト  
 ヲ論ズルコトナク本来有形上令ツコトヲ得心  
 キモノナリ橋利景ノ如キ無件物ト多トモ仍ホ  
 之トハ心ヲ令ツコトヲ得心キモノナリトモ是  
 レ有形上ト云テ然ルニ此ハ必シテ無形上ト云テ  
 然ルコトヲ得又二分ノ一三分ノ一者クハ四分  
 ノ一等ノ如ク其令教ニ於テ分ツコトヲ得心モ  
 ノナリ此故ニ所有橋ノ如キハ二人若クハ數人  
 ノ人ニ屬之人ニトシテ得心スル而シテ其各自ハ物

ノ至部所有者ノ二名ノ一三分ノ一者ヲ有スル

一人ニ属之人ニトテ得べし不己テ其各自ハ物

ノ至部所有権ノニ多ノ一、三分ノ一著ヲ有スベ  
ト是レ既ニ第十四条ノ下ニ於テ述ベタム人ノ不  
共有権ノ場合ナリ若共有者ノ権利ハ物ノ一部  
合ニ存セズトテ其全部ニ存己且ツ如何ニ之ヲ  
細分スルモ仍ホ其各部ニ存スルモノナリ  
不分トシテ不可分トハ一見相似タムガ如シト  
之ヲ混ズルコトナキヲ要ス不令ハ命又ザルノ  
謂ナリ故ニ不令ノ場合ニ於テハ権利ノ目的タ  
ルモノ未タ分タレズ然レドモ之ヲ合ツコトヲ  
得心ニ不可分ハ分ツ可カラザルノ謂ナリ故ニ

不可分ノ場合ニ於テハ未分タルノ三  
ラズ分ツニトテ得ザルナリ凡ソ物ハ分ツコト  
ヲ得ルヲ以テ原則ト爲シ或ル場合ニ於テ分ツ  
可カラザルモノアルニ至テ例外ト爲スルモノ  
ナルコト既ニ之ヲ述ベタリ  
不可分ニ三個人原因アリ物ノ性質、当事者ノ意  
思、法律ノ規定等上リ  
物ノ性質ニ基テ不可分ハ無体物タル權利ニ  
三適用スルニトテ得ベシ之ヲ例スルニ地役ノ  
多數ニ至リ分ツニトテ得ベカラザルモノナリ

多額... 至リ合ツニトヲ得心カヲサハモノヤリ

或ハ通行橋又ハ觀望橋ノ如キ或ハ建築ヲ為サ

スル地役ノ如キ即チ是ナリ此ノ如キ場合ニ於

テハ有形上合ツコトヲ得心カヲサハル而已ナ

ク無形上ハ就テモ仍チ合ツコトヲ得心カヲサ

ルモノナリ何トナシハ通行橋ノニ合フ一ト云

フガ如キハ到底解ニ得心カヲサハルナレバ

リ...

地役権ノ不可分ナル性質ヨリ生ズル実用上ノ

統制及合ツコトヲ得心カ地役ノ場合ニ其地役

ヨリ生ズル利益ニ関シテ仍チ第ニ百六十八條

人事(下) 施す之ヲ示ス心シ

員使ノ私私ヲモ亦其性灰其目的ノ性後ニ因テ分

ツニトヲ得心カラガハ者ナリ(参考第四百四十

一 事ノ理由

物ノ命ツコトヲ得心カラサレモ人ハ属当事者

ノ明モ又ハ黙示シ人ノ意思ヲ生スルモノナ

リ当事者ガ目的トスル所ノ結果ニシテ其一部

分ノミニニテ到底有益ナレト能ハカレトキハ

是レ必ズ分ツ可カラサレモノナリ喻ハバ大ナ

定マリ人ノ家屋ヲ建築スルニトヲ諾約シタル

トガ其家屋ノ半部ヲ築造スルニ事ナリ其義効



定マリ人 家屋ヲ建築スルニトテ諸般ニ及ル

モノガ其家屋ノ半部ヲ築造スルモ亦又其義務

ノ二分ノ一ヲ履行シタリト謂フコト能ハズ故

ニ未ダ築造セザル他ノ二分ノ一ニ對シ債権者

ニ債金ヲ供ヘテ建築ノ義務ヲ受カル、ニトテ

得ざるヲモ築造ノ義務ヲ負ヒタル家屋ノ全部

ヲ落成セシメガハ流ル未ダ少シモ義務ヲ受カ

ルハ為メ有益ナル要ヲ為サツルモノナリ若

シ此場合ニ於テ二人ノ建築師建築ノ義務ヲ負

ヒタリトセシヤ其一人が家屋ノ半部ヲ築造ス

ルモ之ニ由テ己ニ自己ノ義務ヲ受カシタリト

云フコトヲ得ス他ノ一人ニコレヲ裁断スルヤ  
ル中ハ自カヲ富屋ノ至部ヲ築造セザル可カ  
ラズ

金錢ニ其性質上ツコトヲ得心キモノヤリト  
至トニ事者ノ意思如何ニ因リテハ金錢ノ債  
務トモ仍モ不可分ナルコトヲ得心シ故ニ今ニ  
人ニテ或人ノ不節量ヲ取得スル由ニ必要ナル金  
円ヲ他ノ一人ニ譲約シ又ハ場合ニ於テハ其二  
人ノ各自ニ他ノ一人ニ於テ此義務ヲ履行セサ  
ルトキハ自カヲ諾約シ又ハ金円ノ至部ヲ給ス

ルトキハ自カヲ諾致シ又ハ金田ノ至額ヲ給ス

ルコトヲ要ス然ラカレバ債権者ノ目的ハ終局  
一部名ト由ルモ達スルニトヲ得ズ何トナシハ  
不動産ノニ多ノ一ヲ壹液スモノ有ラサレ可ケ  
レハナリ之ト同一ノ理由ニ依リ若シ右ニ揚ル  
ル如キ目的ヲ以テ此金負ノ債権ヲ有スルモノ  
二人ナル場合ニ於テハ其一人ガ請求ヲ為リハ  
ルトキト由他ノ一人ハ金負ノ至額ヲ請求スル  
コトヲ得心シ

物ノ名ツ可カヲ下人性質ガ法律ノ規定ニ因テ  
生スル場合ハ甚多シ其例トシテ茲ニ示ス

コトヲ得心キハ動産質不動産質先取特権及抵  
当ノ場合ナリトス然レドモ此場合ニ於テモ仍  
ホ法律ノ規定ニ由テ不可分ノ性質ヲ附與シタ  
リト謂ハレヨリ寧ロ法律ハ当事者ノ意思ヲ推  
定シテ此性質ヲ認メタリト謂フ也(参看債権  
擔保編第百五條第百廿三條第百三十二條及第  
百九十九條)法律ノ規定ニ依リ特ニ不可分ノ性  
質ヲ物ニ附與スル場合ハ特別ノ法律ニ於テ之  
ヲ裁ルコト有ル心シ

物ノ區別ヲ遺囑スル事初ニ於テ既ニ言ハル如  
ク物ノ種類ノ區別ハ特ニ則トシテ茲ニ掲クル

物ノ區別ヲ遺明スル事初ニ於テ既ニ言ハル如ク物ノ種々ノ區別ハ唯獨則トシテ茲ニ掲クルノ三故ニ此區別ニ實之ニ詳細ノ説明ニ至テハ其區別ヨリ生ズル直接ノ結果ヲ規定スル法文

人事<sup>下</sup>地ニ於テ之ヲ為スル

第廿条

今古代ニ溯リ社會創造ノ時代ニ於テ之ヲ考スルトキハ凡テ物ハ其場合ニ於テ未タ何人ノ所有ニモ屬セザリシト明カニシテ人ノ所有ニ屬シタルハ後年ニ至テ生ズル事實ナリトト分諦ナリ是ニ申テ之ヲ觀シハ本條ノ區別ヲ掲

夫ハニ當テハ先ツ人ノ所有ニ屬セテ人モノヲ  
 示シ而シテ後人ノ所有ニ屬スルモノヲ掲ケル  
 ニト至ルナリガ如クト至ルニ至ルハ之ニ反シ所有  
 者ニ屬スルモノヲ以テ第一ニ置ケリ其理蓋シ  
 今日ニ在ツテ人ノ所有ニ屬スルモノハ物ノ最  
 大部分ニ著スルニ状態ニ在テ人ノ所有ニ屬セ  
 ルハハ之ニ其例外ニ過ガルヲ以テナリ  
 本条ニ掲ゲタル物ノ細分ニ於テ法律ノ順序ニ  
 従フトキハ第一ニ私人資産ノ部分ヲ為スモノ  
 ニ属シテ特ニ規定スル所ナリ心キガ如ク然ル

去文ニ於テ此見立ヲ為シ必直キニ云ノ意

実ニテ特ニ規定スル所下ル心キガ如ク然ル

ニ法文ニ於テ此規定ヲ為サズ直キニ公ノ遺産  
ノ部分ヲ為スモノニ定メテノニ規定ヲ後ケタ  
ルニ畢竟スルニ民法全部ノ主トスル所ハ私ノ  
資産ノ部分ヲ為スモノニ在テ各人ニ屬セズ即  
チ公ノ資産ノ部分ヲ為スモノニ惟之ニ附隨ニ  
テ規定セラルニ此ヲ以テ今特ニ之ヲ明定スル  
ヲ必要ト為ス

第廿一章

國ノ公布ニ屬スルモノト其利有ニ屬スルモノ  
トノ區別ハ実用上甚大ナル結果ヲ有スルモ

ノナリ就中此財産ノ讓渡管理及時効ノ点ニ於  
テ最モ多シトオス

公布ニ属スル財産ハ原則上讓渡スコトヲ得ホ

ルモノナリ又時効ノ窺ハコトヲ得ルモノト

ス此等ノ財産ニシテ讓渡ナシ又ハ時効ニ窺ハ

ニハ先ヅ公布ノ性後ヲ失ハシメ他人ノ種目ニ編

入セラレタルニトシテ必要ト為ス而シテ元來其

財産ノ用方ノ適法ナル変更ニ依ルニ執ナシハ

認ハザル所ノコトナリ

公布財産ノ管理ハ概シテ公共ノ建物ヲ使用ス



公有財產ノ管理ハ概シテ公共ノ建物ヲ使用ス

ル官廳ノ長官ニ屬スルモノナリ若シ國ノ私有

ニ屬スル財產ナルトキハ其財產所在地ノ地方

長官之ヲ管理ス

此等ノ事項ニ定ムル規定ハ行政法ニ屬スルニ

モナリ

第廿二条

公有ニ屬スル財產ノ特別ナル性質ハ國用ニ供

セラル、ノ一事ニ在リ本条ニ於テ法律ハ性質

類例ヲ示スノ三例ナリト云ハ既ニ公有財產ニ管

スル事則チ明記シタル以上ハ本条ニ掲ケタル

モノニ付テモ其果シテ公布助産女人 怡産ヲ有  
スルヤ否ヤヲ判別スルニト甚ム容易ナリ心ニ  
國領ノ海ナリ者ハ大洋(參看第 二十 七 条)ニ對ス  
ルモノナリ 國領ノ海ト稱スル部方ハ 國領ノ附  
屬ト看做サル、モノニシテ 國際法ニ從ハル陸  
地ヨリ砲丸ノ達シ得ルキ点マデノ海ヲ國領ノ  
海ト考ス而シテ 近世銃砲製造ノ術 進歩スルト  
共ニ各國々領ノ海ハ 次第ニ其範圍ヲ擴ムルモ  
ノト云フニトテ 得心シ、其根柢所在ニ於テ  
海濱ノ方ニ在テハ 國領ノ海ノ界限ハ 春分秋分

海濱ノ方ニ在テハ國領ノ海ノ限界ハ春分秋分

最高潮ノ到ル處ニ在リトス是レ既ニ羅馬ノ時

代ニ於テ認メラレタリ然則ニシテ今日ニ於テ

モ仍ホ一般ノ認メタル至當ノ果則ナリ

寺社、病院、學校、博物館及書藏館等ノ如キハ本邦

ニ之ヲ掲ゲズ蓋シ此ノ如キ建築物ノ中ニハ私有

ニ屬スルモノアルヲ以テナリ此故ニ此ノ如キ

建築物ノ性質ニ笑スル例證ハ<sup>各</sup>場合ニ於テ一

々之ヲ決スルニトヲ必要ト為ス

之ニ及ニテ監獄ハ凡テ公有ニ屬スルコト勿論

ナリ

公有之ヲ分ツテ國有、府縣有、郡有及市町村有  
ト為スニトヲ得ル心ニ奉ル、明記スル所ノ例ハ  
專ラ國有ニ笑スト、邑、府、郡、市、町、村モ亦道、河、堀  
割及一地方ノ公用ニ供スル建物ヲ有スルニト  
ヲ得心シ此ノ如ク財產ニ課税、管理、時効等ノ点  
ニ於テ公有物一般ノ原則ニ從フ心キニト勿論  
ナリ、

第廿三章

國、府、縣等ノ私有ニ屬スル財產ノ性質、  
本條ニ於テ之ヲ指シヤリ即チ此種ノ物ハ國、府、縣等ガ

於テ之ヲ指シテヤリ即チ此種ノ物ハ國守命等加  
名人ト同一ノ名義ニ於テ所有スル所ノモノニ  
シテ且ツ金錢ニ見積ルニトヲ得心キ收入ヲ生  
必キ所ノモノナリ

第廿四條

無主物トハ現ニ何人ニモ屬セザル物ノ謂ニシ  
テ若シ之ヲ占領スルモノ有ルトキ即チ他人ニ  
失テテ其物ノ占有ヲ握ルノ要ヲ爲スモノ有  
ルトキハ之ニ依テ其人ニ屬スルニ而シテ占領  
ノ何タルコトハ財產取得編第ニ條以下ニ於テ  
之ヲ示スルニ

不動産物ノ遺棄スルハ其場合玄陰ニ於テ甚ク  
罕シナリト雖若シ此ノ如キ事定アルトキハ此  
遺棄セラレタル不動産ノ所有權ハ直ニ國ニ  
歸ス若シ相続人ナクシテ死亡スルモ人  
トキハ其遺棄ニ付テモ亦同一ナリ(參見第廿三  
条第二項)

第廿五条

公共物ハ無主物ト同一ナラス又<sup>私</sup>所有ニ屬スル  
モノト同一ナラス

公共物が無主物ト異ナルハ次ノ如クニアリ即チ

公共物ハ各人が自由ニ之ヲ使用し得ルモノト

公共物が無主物ト異ナルハ次ノ点ニアリ即チ

公共物ハ各人が自由ニ之ヲ使用シ得ルキコト  
是ナリ而シテ私有ニ屬スル物ト相異ナルハ左  
ノ点ニアリ即チ公共物ハ決シテ各人ノ專一ト  
ル所在ニ屬スルコト能ハズ人コト是ナリ公共  
物ハ各人經營之ヲ使用ヲ為スモ惟其物ノ些少  
ナル一部份ニ在テ利益ヲ得ルニ過カズ致テ其  
全部ノ所有權ヲ得ルコト能ハズ例之ハ下流ノ  
水ヲ汲ニ空乘ヲ呼吸スルカ如キ是ナリ  
第廿六条  
本条ニ掲ケル物ノ區別ハ各人ノ有効無効ノ点

ニ笑シテ適甲ヲ若ル心シ即チ不融通物ヲ以テ  
目的ト考シタル旨言ハ無効十人モノナリ故ニ  
此ノ如キ旨言ヲ為スモ此旨言ハ不融通物ノ上  
ニ何等ノ權利ヲ得セシケルモノニ非ラズ又  
種ノ物ニ於テ義務ヲ諾シタルモノ終至其義  
務ヲ履行セザルコトアルモ是レ其義務ハ無効  
十人モノナルカ故ニ不履行ヨリ生ズル損害ノ  
賠償ヲ為ス義務ヲ生ズルコトナシ但シ其当事  
者ニ於テ詐欺ヲ為シタルトキハ右ニ格別ナル  
至別人限ニ非ラズ



至別ノ限ニ執ラズ

如何ナルモノガ不融通物ナルヤヲ指テスルハ  
主トシテ行政法及刑法ナリトス他リトモ特ニ  
法文ノ明示ヲ俟タズシテ其物ノ性質上不融通  
ナルモノナリ  
之ヲ要スルニ特ニ不融通物ナラザルモノハ凡  
テ融通物ナリ即チ各人が之ヲ要スルコトヲ  
得ベキ所ノモノナリ物ハ凡テ融通スルコトヲ  
得ベキヲ以テ原則ト爲シ融通スルコトヲ得ガ  
ルハ至ク例外ニ属スルモノナリ

第廿七条

人或ハ讓渡スコトヲ得サル物ヲ以テ不融通物  
 ト同一ナリト信スルモノ有ラシ然リト雖讓渡  
 スコトヲ得ガルト融通スルコトヲ得ガルトハ  
 其事全ク同シカラス讓渡スニトヲ得ガルトノ  
 ニシテ仍ホ融通物タルモノアリ法律ハ本至ニ  
 於テ其例ヲ示セリ  
 例令ハ使用權又ハ住居權ノ如キハ融通物ナリ  
 如何トナレハ賣買交換又ハ贈與等ノ如キ  
 ニ因リ之ヲ設定スルコトヲ得ベク又一旦之ヲ  
 設定シタル後更ニ合意ヲ以テ其物ノ所有者ニ

之ヲ讓渡スルコトヲ得ベクケレバナリ然リト雖

造定ニ父ル後更ニ合意ヲ以テ其物ノ所有者  
之ヲ還附スルコトヲ得ベケレバナリ然リト至  
此ノ如キ格利ヲ得父人モノハ之ヲ亦三者ニ讓  
返スコトヲ得ズ  
地役ニ至テモ亦之ト相似たり例之ハ相隣所有  
者別人合意ヲ以テ地役ヲ造定スル如キハ固ヨ  
リ為ニ得心キ所ナリト雖一旦地役権ヲ得父人  
モハ其友工人要役地ヨリ之ヲ名義ニテ單ニ  
地役権ノミヲ共役地ノ所有者以外ノ人ニ讓渡  
スコトヲ得ル是又懸通物ニシテ讓渡スコトヲ  
得ル場合ナリ

之ヲ要スルニ物ハ凡テ譲渡スニトテ得ルヲ以  
テ棄則ト有シ譲渡スニトテ得ザルハ至ク例外  
ニ属ス而シテ此例外タルヤ或ハ法律ノ規定ニ  
因テ生スルニトテリ或ハ人ノ意思即チ合意若  
クハ遺言ニ基クニトテ得心已込リト爲人ノ  
意思ヲ以テ斯ノ如キ例外ヲ設クルハ至ク若人  
ノ自由ナルニ執ラズ必ス法律ノ特ニ此事ヲ許  
シタル場合ニ於テスルコトヲ必要トス

第廿八条

時効ノ性質ノ如クハ今爰ニ説明スベキ所ニア

ラズ時効ハ反身又ハ受遺ノ法律上ノ推定ニ

時効ノ性質ノ如クハ今爰ニ説明スベキ所ニア  
ラズ時効ハ取得又ハ受責ノ法律上ノ推定ニシ  
テ此効力ヲ生ズル直接ノ方法ニ非ハルコトハ  
後ニ至テ第四十三条ノ事項ニ於テ之ヲ述カベ  
ク且ツ特ニ證據編第二部ニ於テ之ヲ明カニス  
ベシ

時効ノ性質如何ニ定ムル由クハ暫ラク之ヲ措  
クモ永ク継続シタル占有ニ非ハルニモ時効  
ノ利益ヲ生ゼシムル老ノニ非ハルコトハ即カ  
ナリ又其時効ノ利益ヲ生ゼシムルコト能ハガ  
ル障碍ハ物ノ性質ニ異ズルコトアリ或ハ法律

ノ規定ニ基クコトアリ例之ハ公取ニ属スルモ  
ノ及スル種類ノ地役(参考者ニ百七十八条)ハ時  
効ニ属ルコトヲ得サル如キ是ナリ

時トシテハ時効ハ法律ノ特ニ保護スル如ク  
種類ノ人ニ對シテ進行スル能ハサルコトア  
リ即チ此等ノ人ニ對シテハ時効ハ停止セラ  
ルコトアリ例令ハ却表ニ對スル場合又ハ  
配偶者間ニ於ケルガ如シ(参考者民法編第百廿  
一条及第百三十四條)然レトモ此ノ如キ場合  
ニ於テハ此等ノ人ニ属スル財産ガ時効ニ属

ニ施テハ此等ノ人ニ属スル財産ガ時効ニ罹

ルコトヲ得スト謂フベカラズ

此ノ如クナルヲ以テ遂ニ時効ニ罹ルコトヲ得

サルモノ有ルコトヲ認ムルヲ要ス然レモ時効

ニハ概ルコトヲ得ザル性質ハ譲渡スコトヲ得ザ

ル性質ノ如ク至ク例外ニ属スルモノニシテ凡

テ物ニ時効ニ罹ルコトヲ得ルヲ以テ原則ト爲

ス

第廿九条

凡テ債務者ノ有スル財産ハ其債権者等ノ為ニ

共同ノ擔保タルモノナリ若シ債務者ニシテ其

義務ヲ履行セサル時ハ債権者等ハ法律ノ定メ  
タル或ル条件ト區別トニ從ツテ債務者ノ財産  
ヲ差押ヘ及賣却セシメ其代價ニ因テ弁済ヲ受  
クルコトヲ得ベシ(參看債權擔保編第一章此リ  
ト爲或ル種類ノ財産ニ至テハ總令債務者ノ所  
有ニ屬スルト爲債権者ニ之ヲ差押ヘ及賣却セシ  
ムルコト能ハサルモノアリ第一ニ此種類ニ屬  
スルハ不融直物及讓渡スコトヲ得ルモノ是  
ナリ何トナレハ差押ノ結果ハ讓渡ニ至テ此ノ  
如キモノハ讓渡スコトヲ得ルハナリ又融直



其キモノハ譲渡スコトヲ得カシハナリ又

物ニシテ且ツ任意ニ之ヲ譲渡ヲ為シ得ベキモノ

ノトモ仍ホ差押ニ因ル強制ノ譲渡ヲ禁セラレ

タルモノ有リ

民法ニ於テ為替手形ニ関シ(民法第七百六十四

条)又訴訟法ニ於テ無資力ナル債務者ノ使用及

職業ニ必要ナル動産ニ関シ(参看民事訴訟

法第五百七十条)債権者が差押ヲ為ス權利ノ制

限ヲ着ルルニ

本章ニ於テ法律ノ規定ニ関係ヲ有スルモノハ

區別ノ列記ヲ終レリ然リトモ茲ニ提ルル所ノ

外仍亦他ニ物ノ區別ヲ方スニトヲ得心シ惟其  
 區別ハ以上ニ指ケタル者ノ區別ニ比スレハ橋  
 利ニ影響ヲ及ホスニト甚シク大ナラサルノ三  
 今友ニ其四個ヲ示サン  
 第一遺失物又ハ盜取物ノ區別此種ノ物ハ凡テ  
 動産ノ善意ノ占有者ガ或ハ條件ヲ備ヘタルト  
 キ受クルニトヲ得心シ利益十ノ即時ノ時効ニ  
 罹ルニトヲ得ズ此等ノ物ノ時効ニハ二ヶ年ノ  
 占有ヲ必要トス(證據編百四十五條)  
 此ノ如キモノニ矣シ即時ノ時効ノ原則ニ對シ

此ノ如キモノニ其レ即時ノ時効ノ原則ニ對シ

テ何故ニ右ノ如ク例外ヲ設ケタルヤハ其レ

示スベキコトニ在ラヌ何トナシハ此例外ヲ設

明スルニハ失ツ原則ノ設限ヲ為スニトヲ要ス

ベシ而シテ是レ實ニ盜則ノ範圍外ニ屬スレハ

ナリ

遺失物中ニハ特別法ヲ以テ之カ取得ヲ規定シ

タル水陸ノ漂流物、遺失物ヲ包有ス(參看財産取

得編第三條)

第二明確ナル物、是レ明カニ其性質、数量其他之

ヲ供給スベキ場所等ヲ知り得ベキ有價物ニシ

テ概シテ義務者ノ負担スル所ノモノナリ明確  
ナル物ト其他人ノ物トノ區別ノ主ナル利益ハ義  
務ノ相殺ノ点ニ存スルモノナリ(参考ヤ五頁廿  
五及第五頁廿三條)又此區別ノ利益ハ行政執行  
ニ関シテモ存スルモノナリ何トナシハ行政執  
行ハ明確ナル物ニ付テノ三行フコトヲ得心キ  
モノナリハナリ

第三一定ノ價額ヲ超ユル物及然ラサル物、法律  
ハ他ノ證據ニ比スレバ人證ヲ許スコト容易ナ  
ラズ此ノ如クナリモノハ敬テ普通ノ人ノ位ニ

テ不此ノ如クナルモノハ故テ普通ノ人ノ位ニ  
ルカ如ク他人ニ信ヲ措カサルガ故ニアラス惟  
不法ノ訴訟ヲ豫防セシガ爲ナリ原告及被告ハ  
常ニ自己ノ権利ヲ代ヘルコト厚キニ過キ得テ  
自己ニ利益ナル陳述ヲ爲スルキ證人ニ甚ク重  
キヲ置クベシ而シテ此ノ如キ證人ノ陳述ハ判  
事ノ前ニ於テ屬判事ノ口証ヲ生ゼシムルニ必  
要ナル明確ヲ缺クモノナリ之ヲ許ストキハ徒  
ラニ訴訟ヲ起スノ風ヲ爲シ訴訟人ト一般ノ利  
益トヲ害スルモノ歎カラサルニ至ラン  
故ニ法律ハ其價額五十円ヲ超エタル係争利益

ニ実ニテハ 證書ヲ以テ之ヲ證スルコトヲ必  
ナリト定メタリ此 傍証未滿ニ在テハ 證書ヲ必  
要トセズ蓋シ小ナル 證書ハ 大ナルモノニ比シ  
テ甚ルニ多ク且ツ甚ルニ迅速ヲ要スレハナリ  
全負若クハ 傍証ノ多少ハ 一審及控訴ノ 裁判  
所ノ 管轄ニ 関シテ 影響ヲ及ボスモノナリ(參看  
裁判所構成法)

第四 壊爛スル物及然ラザル物 凡ソ物ハ 歲月  
ヲ経ハコト久シキニ至ルトキハ 凡テ皆 壊爛ス  
ベシト 虫鼠ニ 壊爛スルモノト 稱スルハ 比人如

ク凡博ノ 意義ヲ 示スルモノニ 非ズ 堆甚ルニ 連カ

へしト虫該ニ壞爛スルモノト稱スルハ此ノ如

ク汎博ノ意義ヲ有スルモノニ非ズ惟甚カ速カ

ニ壞爛スルモノヲ謂フ例令ハ食用品ノ如キ多

クハ此種類ニ属スルモノナリ壞爛スルモノト

由ラガルモノトノ區別ノ利益ハ用益權(參看中

五拾五条)及(注)貴貸借(參看財產取得編中百七十

八条)ニ実ニテ之ヲ看ルハ後見及凡テ他人ノ

事務ノ管理ノ場合ニ於テモ此區別ノ適用ヲ看

ルコトアルベシ

從令直ニ壞爛スルコトナシト虫仍ホ其市場

ノ價額ヲ失フコト速カナル性質ノ物ハ法律上

之ヲ道千ニ壞爛ス心キ毛ノト同一視スルコト

ヲ要ス

...

...

...

...

...

...

...

...

第一節 勿産